

関する意識分析 一家庭経済の現状と生活設計一 (第1報)

長谷川知一(東海学園女子短大) 河口智政(山田家政短大)  
 〇武長脩行(慶応大学大学院経) 安藤文子(愛知女子短大)  
 田尻寧子(金城学院大) 刀富あさ(山田家政短大) 武藤富美子(名古屋短大)

目的:中部地区の家庭経営研究委員会は、この数年家計簿の史的発展、家計簿の類型把握、それらをベースにして、現代生活に見合った新しい家計簿の試案作成に向けて研究を進めてきた。そこで、この中で研究を補完する意味でも家庭生活の現状把握、特に生活設計の指針と家庭生活の安定と発展の方向を探る目的で家庭経済の側面を中心にアンケート調査を実施した。中心項目は、家庭経営のタイプ、家計簿の記帳(詳細は第2報)生活設計のタイプ、キャッシュレス時代のりけとめ方、さらには、将来の安全保障としての貯蓄・保険の果す役割等である。

方法: 1.質問紙配布によるアンケート調査(自記式留置法) 2.調査対象者 名古屋市内の20年代~60年代の主婦 3.サンプル数 817(ライフステージを考慮) 4.分析方法 単純、クロス集計

結果:ライフステージ別による生活設計のタイプが幾つかに分かれた。家計簿を記帳しているものは全体の約半数。キャッシュレスについては、銀行カードは、かなり普及しているが、キャッシュレスの本命たるクレジットカードの普及率は約半数で利用度も低い。地域特性も関係している。将来の生活設計に対しては、世代間の差は、あるものの、貯蓄・保険等によって各家庭とも息りなく準備していることがうかがわれた。